

研修報告

グローバル研修：3 役企画

医療ソーシャルワーカーにとっての実践研究の意義 はじめてみよう！実践研究

- ◇講師：日本福祉大学 保正 友子 氏
- ◇研修日：2019年12月14日（土）13：30～16：30
- ◇会場：ウインクあいち 1003 会議室
- ◇参加者：18名（定員30名）



野田副会長

3 役企画研修として、誰もが実践研究をする上での知識を学ぶ「入門編」として、企画しました。すでに「学会発表支援ゼミナール」が人数限定で実践研究を学会発表するという具体的な目標に向かって行われていることから、そうした学会発表に至る前の実践研究そのものに焦点を当て、講師が関与した日本ソーシャルワーク学会編『ソーシャルワーカーのための実践ガイドブック』を参考に、知識の共有をする機会となりました。

ワークショップ形式で、参加者の実践を考えながら進めていくスタイルは、自身の実践課題を見つめなおす良い機会にもなりました。この研修の中で、現在学会発表支援ゼミナール受講中の会員 2 名にも学会発表にむけて取り組んでいる状況などを報告いただく時間ももち、等身大の取り組みを知る機会にもなりました。

実践者として、実践研究をすることは組織や地域での取り組みに生かすうえで重要なことです。忙しいけれども、個別事例からみえてくる組織や地域の課題にどう展開するかは、日頃の実践の中から生まれる「問い」から始まります。ぜひ、今後もこうした協会企画に興味関心を持ち、機会があれば参加してみてもはどうでしょうか。